

# 国風文化は平安時代の文学への影響

惠州学院 盘翠婷\*

惠州学院 康传金

## 要旨

日本と中国は一衣帯水で、古来、深く中国文化の影響を受けます。紀元7世紀に、中国の唐の国力は強く盛んで、平安初期にいて日本は、両国国力の巨大な落差前にあって、社会変動の道路を求めなければいけません。この時、国力繁栄した中国の唐はすぐ勉強した最高の手本になります。日本は唐の物質文化に空前の敬慕に達します。政治で力の限りを尽くして唐の制度を模倣し、まだ唐へ遣唐使を派遣し、積極的に唐と貿易や文化を交流します。文学において、漢学は主導地位を占拠し、日本皇室貴族、公卿大臣の皆はきわめて高い漢学の素養が持っています。そのため、平安初期は日本史学者に“国風暗黒時代”と呼ばれます。

しかし、平安中後期から、日本文化が重大に転換します。ずっと深い唐風文化の影響を受けた日本文化はこの局面から抜け出し始めます。紀元8世紀に、菅原道真は遣唐使を撤廃した、日本が唐文化を大規模に勉強する足並みを停止します。民族意識は目覚めて、しだいに唐風文化を吸収し、消化した後、独特な審美意識を形成しています。紀元10世紀に、国風文化は出現します。この時期に、日本文学は絶大な発展、かなの運用、女流文学の繁栄、大量の俳諧の創作、全部は国風文化の影響で取った成果です。

キーワード：国風文化 仮名 文学

## Abstract

*Japan had influenced by Chinese culture since ancient times. In the 7th century, China has entered the prosperous Tang Dynasty, national strength and prosperity, in the early peace of Japan, in front of the huge gap between the two countries' national strength, to seek the road of social change, the Tang Dynasty has become the best template. At this time, Japan's material culture to the Tang Dynasty reached an unprecedented admiration. Not only in the political*

system of the Tang Dynasty to imitate, also sent envoys, actively carry out trade with the Tang Dynasty and cultural exchange. In the literature, Sinology occupies the dominant position, the Japanese royal family, officials have high mastery of sinology. Therefore, the early period of peace called the "era of the national wind" by Japanese historians. However, since the middle and late period of Heian Period, Japanese culture has been a major turning point, has been deeply influenced by the culture of the Tang Dynasty began to get rid of this situation. The 8th century, after Sugawara no Michizane proposed the abolition of qiantangshi system, Japan stopped the pace of the learning Tang Dynasty culture, awakening national consciousness. After gradually absorb and digest the style of Tang culture formed unique aesthetic consciousness. In the tenth Century, Japanese National culture had been formed. In this period, the Japanese literature obtained great development, the use of Kana, the prosperity of female literature, the creation of a large number of Waka, no one is not the result of the influence of national culture.

**Key words: national culture Kana literature**

## 一、国風文化

### 1. 国風文化の意味と特徴

簡単に言えば、国風文化とは紀元 10 世紀～11 世紀に渡って、平安中期から後期にかけて栄えた、優雅な貴族文化である[1]。国風文化という概念は戦後に生まれて、最初は川崎庸之氏の「撰閣政治と国風文化」の中で現れた。平安時代の日本は唐の文化を自分の国に移し、自分の国に合わないところがありますが、今後の自身の文化発展が大きな役に立っています。文化の進歩と発展は量的から質的まで変化の過程である[2]。日本は唐の文化を吸収する過程の中で、唐の文化を基礎として、自分の特色を持つ文化を形成しました。唐の文化を基調とし、和風を主導するのは国風文化の著しい特徴である。また、貴族を中心に展開するのも国風文化の一つの特徴である。

### 2. 国風文化の形成

#### (1) 班田制の廃止

紀元 646 年、孝徳天皇は大化の改新を行われた。班田制はその中に含まれていました。班田制は経済

成長を進めとともに大きな隠れた危険があった。班田制は農民に重い税金を背負わせ、生活ができないことが出てきた。そして、農民は中央集権の統治者を反抗することがよく発生した。また、貴族は自分に属する土地の権利を守るために、土地を拡大の野望がある。紀年743年<墾田永年私財法>が行うをきっかけに、貴族は最も多くの私有土地を占める。それによって、班田制が急速に崩壊し、荘園制が台頭します。こんな状況はますます深刻になり、紀年10世紀に入って、班田制が廃止されます。

## (2) 貴族主義の台頭

制を支えた律令制度は、班田制が崩壊の背景の下で、維持することが難しいである。多くの土地を持つ貴族の藤原氏は経済実力が強くなる。同時に皇室と姻族関係になる方式を運用して、摂政、関白を占拠して、徐々に中央の実権を握ります[3]。こうして、貴族ははだんだん実権を握り、天皇主義から貴族主義へ移行します。

## (3) 遣唐使の廃止

唐を模倣した作った班田制と律令制度の崩壊は、日本の唐風文化に大きな影響がある。唐風文化は支えた政治制度を失った。安史の乱ので、唐の国力が衰退の傾向があり、日本は唐に対する熱中が減りました。紀年894年、菅原道真による建義「請令諸公卿議定遣唐使進止状」により、遣唐使が停止された。

## (4) 「和魂」がある自覚

昔、日本は積極的に他の国の文化を吸収し、勉強したが、今日本文化は世界中で自分の特色を持っている。その原因は「和魂漢才」「和魂漢才」「和魂洋才」「和魂美才」という文化様式を採用することである。その文化様式から見ると、「和魂」はその中に貫いている。菅原道真は<菅家遺誠>の中で「和魂漢才がないなら奥まで止まる」を呼びかけた。そして、その後<源氏物語>作者の紫式部は「凡人はいつも学問を中心としなければいけなくて、再び備えて御魂と一生に使うことを見て、すぐ強い者です」を主張します。今昔物語集>作者の源隆国もこう言った「漢才が微妙ですが、ただ和魂が少しともなくなら、この心は死ぬほど幼稚といってもいい」。「和魂」を決して失わずという自覚があるので、国風文化の思想基礎を打ち立てている[4]。

## 二、国風文化は漢学に衰退させて、仮名に栄えさせる

### 1. 漢学の衰退

遣隋使、遣唐使は日本に大量の中国の文献を持って帰るので、当時は宮廷や貴族を中心に、漢文化を勉強することがブームになった。特に、漢詩のことである。日本現存最古の漢文集〈懷風藻〉はこの時の代表作である。また、嵯峨天皇は文章経国の思想によって、漢文化を身につけた程度は役人の評価の基準をとす。皇室の励ましで、漢学は盛んになっている。紀元9世紀まで漢学はいつも主流地位に占めたが、紀元10世紀に入ると、漢学は衰退の傾向があった。荘園経済と摂関政治は強くなるとともに、唐を模倣した律令制度と班田制が次第に崩壊することに向かっている。また、貴族の知識人は'和魂'を失わず自覚があるので、'漢学から逃げる'という運動が展開された。この時、漢学が完全に消えたと言うわけではないが、人々にもっと目を向けては本民族の特色がある創作である。仮名の繁盛、和歌の創作、日記文学や物語文学の発展、女流文学の活躍、どちらも漢学に対する'反動'である。

### 2. 「かな」の繁盛

#### (1) 「かな」の重要性

以前の日本は自分の国に属する文字がなかった。文献や書類などを創作する時漢字を使う仕方がなかった。しかし、「文化認可は言葉の実践の中で行われた、様々な象徴認め形態で、言語と文学は非常に重要な役を演じました。」[5]。自分の言語や文字がなければ、自分の民族文化の認めは極めて低いである。これは漢学から抜け出したい、'和魂'があるの自覚に反した。また、他の国の文字が正しく自分の内心を言い表すことができない、文学作品の創作も一定の障害に受けろので、自分の国に属する文字が必要である。

#### (2) 「かな」の発明

〈万葉集〉は日本最古の詩歌全集であって、日本の文学史の上で重要なマークである。和歌は日本民族特色がある詩歌であり、民族意識の覚醒と民族文化の発展を進めている。〈万葉集〉誕生の時、日本まだ自分の文字を持ってなかった。しかし、日本最古の文字'万葉仮名'は〈万葉集〉がら誕生しました。'万葉仮名'は主として上代に日本語を表記するために漢字の音を借用して用いられた文字のことである。例えば、「名津蚊為」（なつかし=懐かしい、なつかしい）だから、〈万葉集〉を見れば漢字ばかりですが、読めば日本語の音声である。これから、人々の努力を通じて、漢字は既に日本化で、'万葉仮名'は

日本の表音文字記号「かな」に発展してなっている。以前、漢字が達者なのは貴族と僧侶だけですが、他の人が漢字を勉強する機会が少ないである。「かな」は文化知識を大範囲に伝えることができるので、日本文化の発展より良い条件を提供する。その後、完全に「かな」を運用する創作作品が生まれた。日本はだんだん漢学から抜け出し、'国風暗黒時代'に逃げ、国風文化が盛んになって、文学作品の創作も活躍になっている。

### 三、平安時代の文学作品の活躍

#### 1. 和歌

##### (1) 和歌の復興

平安時代の初めには、中国の唐風文化に学ぶ政策が徹底して採用され、漢詩文は天皇や貴族を中心に好んで作られた。天皇は漢詩集を編集するようを命令します。宮廷の命によって、<凌雲集>、<文化秀麗集>、<経国集>の三集が相次いで編集された。平城天皇絡む淳和天皇までの十三年間、漢詩文は大きな成果を取った。だから、平安初期は漢詩文の全盛時代となり、和歌は漢詩文に圧倒されていた。しかし、9世紀の末頃から、この状況が変わった。国風文化の高まりの中、次第に中国文化の模倣から脱去する風潮が生まれ、和歌の復興の兆しが見えてくる[5]。

だが、最初和歌は完全に漢詩文を抜いて、創作されたものではないである。この時期、和歌は漢詩文との交流、和漢対比のもの<新選万葉集>であり、白楽天の作を中心とする漢詩句を題にして和歌を詠んだもの<句題和歌>であり、紀貫之を中心に句題和歌詠んだもの<紀の師匠曲水宴の和歌>である。しかし、和歌はだんだん公的な世界で漢詩文を依頼し、漢詩文と並ぶ局面から漢詩文を圧倒し、主流地位を占める局面へ移しました。

##### (2) 和歌の隆盛

延喜五年、醍醐天皇の勅命で編集された和歌集<古今和歌集>が編集され、大きく和歌文学の隆盛を招くに至った。<古今和歌集>は後の和歌集の規範となり、日本の美意識の原型を確立し、後代に大きな影響があるのだ。また、<古今和歌集>の「仮名序」(紀貫之)は、和歌を漢詩文の地位にまで引き上げるとともに、その日本的伝統性を強調し、宮廷詩として和歌を正しく位置付けることにあった。その後、<後選和歌集>、<拾遺和歌集>、が勅命で編まれ、<古今和歌集>と並び、「三代集」と呼ぶ。そして、

<後拾遺和歌集>以後は、歌人の自覚とともに和歌に対する批判意識も深まり、多く歌論書、歌学書を生んだ。

## 2. 物語文学

### (1) 物語の意味と種類

広辞苑によって、物語とは、作者の見聞または想像を基礎とし、人物・事件について叙述した散文の文学作品。狭義には平安時代から室町時代までのものをいう。大別して伝奇物語・写実物語または作り物語（「竹取物語」）・歌物語（「大和物語」）・歴史物語（「大鏡」）説話物語（「宇治拾遺物語」）・軍記物語（「平家物語」）擬古物語（「松浦宮物語」）などの種類があり、「日記」と称するものの中にはこれと区別しにくいものもある。ものがたりぶみ。

### (2) 物語の発生

物語は以前から存在していた古代民間の伝承である。中国と交流するので、中国六朝・隋唐の漢文伝奇の影響に深く受けた。律令制と班田制の崩壊、藤原摂関政治への移行による公的、男子官僚的、形式的な漢文文化の相対的な意味での後退と後宮文化の発展に伴う私的、女性的、現実的意識の前進があるのだ。また、文字の発明流布などの歴史的諸条件によってはじめて古来の伝承の型によりながら次第に現実の世相や思想、感情をもった人間像を日常語そのまま文字にあらわすことが可能となり、物語は豊かな文学性を持つことができるようになった。

物語は中国語の小説ではなく、英語のノベルでもない。それは日本特有の文学ジャンルである。物語はかな文字を使い、日本民族文学が独創時期に入るということを表示する。「物語の祖」と言われる「竹取物語」の独創性は正にそのような複雑な素材をうまく利用して、美に憧れる平安貴族の典型的な浪漫性を的確に捉えた。また、物語の集大成の「源氏物語」は唐の白居易の詩を大量に引用するが、それただ詩を単純に引用しなくて、詩の本当の意味を理解した後、物語の筋に溶け込んでいる。「源氏物語」を通じて、日本は外来文化を吸収し、理解し、自分の独特な風格を形成するという態度が見せている。

## 3. 日記文学と随筆文学

### (1) 日記文学

日本は元も日記というものがあつたけれど、それは男性の手による漢文で公務を記録するためのものであり、あまり文学価値がないである。日本文学史において、平安時代には優れた文学作品がたくさんある

のだと認められている。その時、日記文学という日本独特の文学様式が生まれ、最初のは紀貫之の「土佐日記」である。「土佐日記」の出現によって、日記は初めて実性の公務から文学性になり、難しい漢文から解放し、自分国の文字のかなで自分の気持ちを現れることができた。男性の紀貫之は女性に見せ掛けて、女性の口先によって描写する。このことは女流日記を生み出していく重要な契機となり、平安時代の女流日記文学の発展を促進している。

## (2) 随筆文学

随筆文学は平安時代から繁栄になり、日本の独特な文学様式の一つである。随筆文学は日記文学と似ていますが、日記文学により、書く形式がもっと自由に、内容ももっと広いである。

## 4. 女流文学

### (1) 女流文学開花の原因

班田制と律令制度の崩壊に代わって、摂関政治と荘園制が盛行となっている。つまり、貴族の勢力はだんだん強くて勢いがある。強く貴族は自分の勢力を固めるため、皇室メンバーと姻族関係になる。女性の地位が高まる。美貌を擁するだけでなく、上品な文化素養は皇室メンバ、特に天皇の歓心を買う条件であると見られている。だから、女子教育が重視されている。また、かな文字の発明と普及は女流文学開花の一つの重要な原因である。以前、唐風文化の影響で、文章経国思想が信奉され、漢字は文化素養が高い人並び朝廷官員の専用文字である。かなは文化素養が低い女性が使うとこのように黙認される規定がある。かなは「女手」と呼ばれている。しかし、女性の地位が高まるとともに、文化素養も高くなっている。また、難しい漢字より、かなは容易に使って、自分の気持ちはもっと自由に言い表すことや民族特色がある作品を創作することができる。平安時代の女流文学は日本文学史に華やかな色彩を添えている。

### (2) 女流文学繁盛の表現

平安時代の女性の作家と言えば、まず、紫式部のことである。紫式部は貴族出身し、小さい頃深く漢学の影響を受けたが、「和魂」を持つ作家である。紫式部の「源氏物語」は物語文学の集大成で、物語の頂点と言われている。この作品の中で、唐の白居易の詩歌の跡がよく見られるのが、決して完全に模倣してはならない。紫式部は白居易の詩歌を吸収した後、自分の理解で作品に運用する。大量に白居易の詩歌を引用する彼女は、民族特色を失った作品を創作することではない、逆に、日本特別な感情「もののあわれ」より良い言い表している。紫式部を除いて、まだ他の多くの優秀な女性の作家がいて、彼女らは全て人々

によく知られていた作品を残しました。例えば、「随筆の壁」の一つと呼ばれる「枕草子」とその作者清少納言、藤原道綱の母の「蜻蛉日記」、和泉式部の「和泉式部日記」、菅原の孝標の娘の「更級日記」などがある。彼女らの作品は日本文学の至宝で、彼女ら日本文学史上がキラキラに輝を生む星である。

## 結語

「もののあわれ」や「慰め」などは日本独特な文化である。これらは日本文学に溶け込んで、日本民族特色がある文学作品を創作されている。それは、長い間に他の文化の影響を受けた日本にとって、安易なことではない。平安時代は日本文学史において、優れた文学作品が輩出の時代である。平安初期の日本は中国に深く影響を受け取られ、唐風文化が主流地位に占めているのが、班田制の崩壊ので、支えた経済基礎を失った律令制度も滅亡へ行った。また、安史の乱を経んだ唐は下り坂に向かい始めた。唐風文化の魅力は減った。遣唐使の廃止は著しい証拠である。この時、日本人は民族意識が覚醒し、民族特色がある文学作品を呼びかけている。かな文字の発明は民族特色がある文学作品の創作への鍵になる。。天皇の命令によって、和歌集が編集され、和歌は公的な場合に流れ、漢詩文に圧倒する傾向がある。そして、かな文字の普及ので、物語、日記、随筆など日本独特な文学様式が生まれた。「国風暗黒時代」から「国風文化」への過程は安易に実現ことではない、日本は確かにできた。国風文化の影響にあって、平安時代の文学は漢学から自身特色を持っている国学に転向しました。他の文化に圧倒されない、自分の風格を堅持し、他の文化を吸収した後、自分の特色がある道を探した。こういう態度はグローバル化がますます深刻になるの今、習うべきのものである。

## 参考文献：

- (1) 王勇. 日本历史 [ M ] . 北京: 高等教育出版社, 2003:83 .
- (2) 从汉风到和风——简论平安时代文明的成熟 《日本学刊》 1999 年 01 期
- (3) 日本国風文化的特征与意义 《日本问题研究》, 2011, 25:47-52
- (4) 周宪. 文学与认同 [ J ] . 文学评论, 2006 ( 6 ) : 5 - 13
- (5) 肖霞编著 日本文学史 济南山东大学出版社, 2008. 3